

福井県議会 議長

宮本 俊 様

2025年2月14日

提出者 原子力発電に反対する
福井県民会議
(福井県三方上中郡若狭町気山 145-6-1)
代表委員 中畷 哲演
嶋田 千恵子
笠原 一浩
松下 照幸
松永 寛治

関西電力より提出されたロードマップの見直しに関する陳情

〔陳情の趣旨〕

福島第一原発事故から14年が経とうとしています。第7次エネルギー基本計画では、「可能な限り原発依存度を低減する」という文言が無くなり「原発を最大限活用する」方針に転換しています。

一年前に起きた能登半島地震以降も日本各地で大きな地震が発生しています。能登半島地震では、道路の寸断、家屋の損壊が至る所で現れ、原発事故の時の防護措置である「避難」と「屋内退避」が困難なことがわかりました。

東日本大震災や能登半島地震など、今、日本列島は地震の活動期に入っているとも言われています。

私たちの暮す福井県には、日本で一番多くの原発が稼働しています。原発のある嶺南にも、陸域、海域に多くの活断層があります。いつ原発に影響するような大きな地震に見舞われてもおかしくありません。しかし、原発が事故を起こし故郷を後にする事態だけは避けねばなりません。

福井県では、今でも4000トンを超える使用済燃料が県内の貯蔵プールに保管されています。私たち県民にとって、納得のいく使用済燃料対策ができるか心配です。このまま使用済燃料を増やし続けていいのかという観点も必要です。

2月県議会では、関西電力から2023年10月に提示されたロードマップが一年もたたずに破綻し、2月県議会開会日までにロードマップの見直しを提示すると言われていています。2月議会でこのことについて議論される事と思います。一年もたたずにロードマップが破綻したことは、関西電力のみならず、県議会の責任も重いものがあります。

私たちの将来にも影響がある、原発から出る使用済燃料対策ロードマップは県全体でしっかり議論し、どうしたらよいか考える大切な問題です。

そこで、ロードマップが一年もたたずに破綻したことを顧みて、次の陳情を提出したいと思います。拙速な判断はせず、多くの県民に説明し、問いかけて、時間をかけて議論し、杉本知事に県議会としての考えを伝えてください。

〔陳情項目〕

- (1) 使用済燃料対策は、将来にも関わる大切な問題です。丁寧な説明や議論が必要です。知事に拙速な判断をしないよう求め、決して2月議会で結論を出すようなことはしないでください。
- (2) 県民に対して、使用済燃料対策ロードマップについての説明会を開いて、丁寧な説明をするよう知事に求めてください。
- (3) 実効性のあるロードマップにするために、以下の点について議論してください。
 - ・ 関西電力の各原発に対する使用済燃料の、搬出先、搬出時期、搬出量を具体的に示してください。
 - ・ 六ヶ所再処理工場への、県内各原発についての、搬出時期、搬出量を示してください。
 - ・ 中間貯蔵施設の具体的施設名を示して、搬出時期、搬出量を示してください。
 - ・ 仏国搬出について、県内原発の、搬出時期、搬出量を示してください。
 - ・ 県内原発の貯蔵プールの管理容量（貯蔵容量から1炉心分差し引いた容量）を示して、管理容量の数値より使用済燃料の貯蔵量を増やさないと明記してください。
- (4) 関西電力のロードマップの見直しの中の数値について、その数値の実効性の担保は何か求めてください。
- (5) 関西電力として、計画が実現できなかった時の責任をどうとるのかについて求めてください。